

# クリスマスに 音楽の全身浴を

石田衣良

みなさん、メリー・クリスマス!

2024の一年間、ほんとうにお疲れさまでした。

今年もたいへんなことが目白押しでしたね。世界中でインフレが起こり、どの国でも政府の力が揺らいで、国の行方が不透明になっています。そんな波乱の年でも、みなさんはがんばって生き抜き、こうしてクリスマスの善き日にクラシック音楽の傑作とともに、波乱万丈の一年を(平和のうちに!)振り返ることができる。なんと幸運で素晴らしいことでしょう。ご自分の一年分のナイスファイトと忍耐を、力いっぱい誉めてあげてください。

街ではいつものこの季節のようににぎやかなクリスマスのポップソングが流れています。もちろんぼくも「ホワイト・クリスマス」や「ママがサンタにキスをした」などのかわいい曲は大好き。ですが、みなさんがいる場所(東京赤坂／六本木の素敵なサントリーホール!)はクラシックの別天地です。耳だけでなく心の奥まで癒してくれる生のオーケストラの響きで、日光浴でもするように全身をぼかぼかに温めてください。東京の十二月は乾燥していますから、お肌のかさかさにもきっとよく効くはずですよ。高価な美容液や健康補助食品だけでなく、肌の張りは感受性豊かな精神があってこそ育まれるもの。心のお手入れには、音楽、美術、演劇、映画、おまけに文学などあらゆる芸術作品が効果的なので、ケチらずにたっぷり振りかけてください。





さあ、音楽の話を始めましょう。アベリ  
ティフの二曲『舞踏会の美女』と『そりすべ  
り』はアメリカのライト・クラシックの名作曲  
家、ルロイ・アンダーソンの作品です。ハリウ  
ド的な豪華さだけでなく、上品なユーモアと子  
のような無邪気な喜びが素敵ですね。置きよき時  
代のアメリカの大衆文化の上澄みといってもいいかも  
しれません。ルロイの曲を一般市民に有名にしたのは、

ボストン・ポップス・オーケストラです。この団体は実は名門ボストン交響楽団  
の夏のあいだのアルバイト。腕利き揃いのオーケストラがライト・クラシックの  
名作を、全力かつ余裕をもって演奏すると、どんな音楽に仕上がるか。コンサ  
ートの最初の音から、全身を耳にして確かめください。

続いて、ロシアの大家の手によるクラシックの歴史に残る組曲がふたつ続きます。  
チャイコフスキーのバレエ組曲『くるみ割り人形』とリムスキー＝コルサ  
コフの交響組曲『シェエラザード』です。どちらも演奏回数の多い人気作で、さ  
まざまな楽曲解説がネットや音楽書にあふれているので、ここは小説家らしく  
ふたつの名曲の文化的な背景について、思うところを簡単に記しておきます。

ロシアはヨーロッパとアジアの境にある国で、先行する西洋の文化や科学技  
術を「あこがれ」の目で見つめてきました。ドイツでさえ西洋から半歩遅れていた  
のに、ロシアはドイツよりさらに東なのです。近代化の過程では、当然ながら芸  
術よりも国の形づくりや実業のほうが大切です。リムスキー＝コルサコフとチャ  
イコフスキーは4歳違いでほぼ同年代なのですが、ふたりとも近代化で苦しむロシ  
アに生き、最初からアカデミックな音楽教育を受けることができなかつたのも同じ  
でした。コルサコフは海軍兵学校、チャイコフスキーは法律学校の卒業生で、そ  
のまま海軍と法務省にすすんだエリートだったのです。

けれど、ふたりは音楽が大好きでたまりませんでした。睡眠時間を削り、休日  
を割いて、作曲と音楽の勉強に励みました。アマチュア出身であることは、この

ふたりの場合重要な特長で、難解に陥らない楽曲の親しみやすさとキャッチーさ  
はそのためかもしれません。ふたりとも天性の素晴らしいメロディストです。

ふたつの組曲は、原作のモチーフを海外から得ているのも共通しています。  
『くるみ割り人形』はドイツの作家ホフマンの童話、『シェエラザード』はいわ  
ずと知れた中東の『千夜一夜物語』がインスピレーションの源泉です。故郷ロ  
シアものではなく、海外文化へのあこがれから生まれた作品なのです。初期  
芥川龍之介の『杜子春』が中国からモチーフを借り、永井荷風が洋行エッセイ  
『ふらんす物語』で人気作家となったように、海外へのあこがれは文化発展の  
最初段階のメインエンジンとなることが多いものです。「遅れた」国ではよくあ  
る事情なのですが、これは実は我がニッポンでも同じ。ロシアの音楽と小説  
が日本でたいへんに人気があるのも、西洋へのあこがれや発展の苦しみを、  
心の風景として共有しているせいかもしれません。これは昔の話ばかりではあ  
りません。現代でも若者の圧倒的な支持により、ハルキムラカミ作品がロシ  
アでベストセラーになっているのです。

かわいい音楽を作曲することに関しては、モーツァルトと並ぶ天才チャイコフ  
スキーが、ドイツの童話をどんなふう料理したか。アマチュアからスタートして  
管弦楽法の大家となったリムスキー＝コルサコフが、ペルシャのお伽話にどん  
な壮麗なオーケストレーションを施したか。さあ、いよいよ音楽の時間の始まり  
です。異なる文化へのあこがれが生んだ  
音楽、ロシア産の豪華でお洒落でキュ  
ートな組曲の世界を、ごゆるりとお楽しみ  
ください。

そして最後に、来年はかの地にも、  
平和な日々が戻りますように。

(いしだいら・作家)

